かごしま林業普及だより

第２０号
（令和８年３月）

目　次

1.　「かごしま椿」のＰＲ活動　・・・【鹿児島指導区】　１頁
2.　大名たけのこ生産林の帯状伐採後の状況調査　・・・【鹿児島指導区】　１頁
3.　南薩地域コンテナ苗生産実践講座視察研修　・・・【南薩指導区】　２頁
4.　知覧町たけのこ振興会視察研修　・・・【南薩指導区】　２頁
5.　南薩枝物生産組合研修　・・・【南薩指導区】　３頁
6.　たけのこ掘り取り塾を開催　・・・【北薩指導区】　３頁
7.　再造林省力化に係る機械地拵え研修を開催　・・・【大隅指導区】　４頁
8.　熊毛地域枝物生産者養成講座　・・・【熊毛指導区】　４頁
9.　特用林産物の養成講座の実施　・・・【普及指導・育成部】　５頁

ホームページで試験研究や
林業普及活動、森林環境教育
などの取組を紹介しています！

鹿児島県森林技術総合センター
普及指導・育成部

「かごしま椿」ＰＲ活動

鹿児島指導区

鹿児島地域では，地域資源を活かした特用林産物である椿資源について，令和６年に椿関係者（椿実生産者，製油業者，椿資源利活用関連の販売業者）と行政関係者（県，市村）をメンバーとして発足した「かごしま椿資源利活用促進協議会」を中心に，地域振興推進事業を活用して，鹿児島の椿資源の利活用促進に関する取組を行っています。

令和７年度は，昨年度に引き続き優良母樹選定調査や椿油の成分分析，鹿児島県産椿油の付加価値向上や販路拡大を目指すための利活用促進研修を実施しました。

また，東京都と鹿児島市において，ＰＲイベントを開催し，「かごしま椿」の認知度向上を図る取組を行いました。

ＰＲイベント開催状況（東京）

今年度は，初めて東京都でのＰＲイベントを開催したことから，「大都市圏」での「かごしま椿」に対してどのような反応があるのか不安でしたが，化粧品等の椿油関連商品や食用椿油の販売，椿油の試食を通して，多くの方々に「かごしま椿」の魅力に触れていただけたのではないかと思います。

今後も引き続き産地育成に向けた生産体制の整備を図っていくほか，「かごしま椿」の魅力発信に向けた取組として，県内外でのＰＲイベントを開催していくとともに，鹿児島の統一ブランドの確立に向けた取組を図って，椿実の増産と「かごしま椿」の認知度向上に関係者一丸となって取り組んでいきたいと思います。（山之内美穂）

大名たけのこ生産林の帯状伐採後の状況調査

鹿児島指導区

三島村，十島村において，管理不十分な大名たけのこ生産林を効率的に整備する試みとして，２年前に３ｍ幅帯状伐採を実施しました。今回は帯状伐採から２年経過した生産林において，プロット調査と生産者に聞き取りを実施しました。

調査の結果，三島村と十島村の両方で，３ｍ幅帯状伐採地は，その周辺の未施業地に比較して，たけのこの直径が小さいことがわかりました。また，竹の本数密度は周辺の未施業地の約25％でした。直径が小さいことやたけのこの発生数が少ないことは良い結果とは言えず，その要因として帯状伐採に使われたブッシュチョッパーによる地面の踏み固めと地下茎の切断等が考えられました。ちなみに悪石島で質・量ともに一番の優良地と言われる御岳周辺は，谷筋のシダ植物が繁茂する湿った環境で竹の平均直径は3.6±0.6㎝，本数密度は16,000本/反でした。

今後は，たけのこ生産林に１ｍ幅程度の搬出路を造成し，レシプロソーとノコギリの労働生産性の比較や使用感などの調査を行い，効率的な大名たけのこ生産林への改良整備について，生産者等との協議を継続しながら，品質の向上や生産量の安定について支援を行ってまいります。（濵田肇次）

生産林での聞き取り（右：竹島，左：諏訪之瀬島）

プロット調査の結果

調査項目	区分	三島村（竹島）	十島村（諏訪之瀬島，悪石島）
竹の地際から30㎝の平均直径	3m幅帯状伐採地	1.8±0.6㎝	2.5±0.7㎝
	未施業地	3.0±0.7㎝	3.2±0.5㎝
本数密度	3m幅帯状伐採地	2,900本/反	3,625本/反
	未施業地	12,000本/反	14,500本/反

南薩地域コンテナ苗生産実践講座視察研修

南薩指導区

１月22～23日に南薩地域のコンテナ苗生産者を対象とした視察研修を行いました。

実施に当たっては，コンテナ苗生産技術の向上や，生産を行う上での課題や疑問等に的確に応える必要があることから，熊本県で先進的な取組を行っている２名の生産者を訪問しました。

当日は最強寒波が襲来とのことで道中が心配されましたが，無事，研修先へ到着することができました。

１日目の研修先の熊本県菊池市の坂本樹苗園では，外国人実習生３名を含む６名で年間25万本のスギコンテナ苗を生産しており，早期の発根を促す密閉挿しや挿し付け時期の調整を行うための挿し穂の冷蔵保管の取り組みを行っていました。

また，２日目の熊本県相良村のコムラ苗樹（株）では，提携している就労継続支援Ａ型事業所の利用者10名を含む20名で年間85万本のスギコンテナ苗の生産を行っており，平成27年からは森林整備部門を設立し，地域の森林組合等から受託した人工造林や下刈り等の作業を実施していました。

研修先の２か所とも，こちらの参加者からの細かな質問などにも的確に回答していただき，また，自らの生産技術を惜しみなく教えていただくことができ，実り多い研修となりました。

管内のコンテナ苗生産量はまだ十分ではなく，需要者のニーズに応えられていない状況ではありますが，今年度から新たな生産者や林福連携による苗木生産も開始されたことから，生産技術向上や増産に向けた取組を加速させていく必要があります。

今後もコンテナ苗生産技術向上研修を計画しており，各生産者の疑問や課題に応えられるよう，引き続き取り組みを進めていきたいと思います。（山下幸一，長谷川徳幸）

熊本県菊池市　坂本樹苗園

熊本県相良村　コムラ苗樹園（株）

知覧町たけのこ振興会視察研修

南薩指導区

林業研究グループの知覧町たけのこ振興会では，放置や荒廃している地域の竹林対策として，昨年から穂先タケノコをメンマ等に加工し，特産品として活用できないか検討を進めています。

その一環として，１月28～29日に福岡県糸島市で国産メンマの普及活動を積極的に行っている糸島コミュニティ事業研究会と，熊本県南関町でたけのこ生産と加工を行っているＪＡたまなたけのこ部会を訪問し，研修を行いました。

糸島コミュニティ事業研究会では，塩漬けした穂先タケノコからメンマへ加工する工程について，具体的な手順や衛生管理のポイントなどを詳しく学びました。

ＪＡたまなたけのこ部会では，茹でたタケノコを塩漬けせずに乾燥機で乾燥させ，メンマなどへ加工する方法について研修しました。

視察後は，早速，塩漬けタケノコを使用した試作品づくりを行いました。また，乾燥タケノコについても既存のシイタケ乾燥機が活用できる見込みであることから，本年産のタケノコを使用して試験的な商品づくりを行う予定としています。引き続き，グループの活動支援を行っていきたいと思います。（山下幸一，長谷川徳幸）

糸島コミュニティ事業研究会

ＪＡたまなたけのこ部会

南薩枝物生産組合研修

南薩指導区

１月21日に南薩枝物生産組合の研修会を開催しました。本研修会は，組合員の生産技術向上を目的として毎年実施しているものです。

研修は，今年度「県林業技術競技会：特用林産の部」で最優秀賞を受賞した会員の圃場を視察し，意見交換を行いました。また，地域振興推進事業で作成する「南薩地域の枝物ＰＲポスター」のコンセプトやポスター写真の撮影について打ち合わせを行いました。

現地研修では，出荷後の剪定方法や日頃の病害虫防除対策について活発な情報交換が行われました。

具体的な事例を交えた意見交換により，組合員相互の理解が一層深まり，今後の連携強化につながる研修となりました。

ポスターのコンセプトやキャッチコピーについては，提案した内容に各会員から多様な意見が出され，今後の制作に向けて有意義な意見交換の場となりました。

ポスター用写真の撮影は，全員で生産した枝物を手に持って撮影しましたが，最初は緊張していた会員も次第に自然な笑顔がこぼれ，和やかな雰囲気の中で写真を撮影することができました。

今後も引き続き，地域の枝物生産者の技術向上に向けた情報提供や研修会を継続してへ行い，産地の発展に努めてまいります。（山下幸一）

現地研修の状況

ＰＲポスター用の写真撮影

たけのこ掘り取り塾を開催

北薩指導区

３月８日（日曜日）に，出水市高尾野町において「たけのこ掘り取り塾」を開催しました。

近年，担い手の減少等により青果用・加工用ともに集荷量の維持継続に懸念の声が聞かれることから，生産者の裾野を広げる一助にするため，生産者，ＪＡ，行政と連携し出水地区特用林産振興会が実施しました。

参加者の募集は，市の広報誌のみだったにもかかわらず，申し込みが押し寄せ，あっと言う間に定員を超え，事務局が慌てる一幕もあり，市民の皆さんの関心の高さが伺えました。

当日は，16名（年齢層は20代～70代）の参加者に，①たけのこの基礎知識，竹林管理の方法　②たけのこの規格，買取状況などを講義し，基礎学習を修了。その後ベテラン生産者の方から「たけのこの見つけ方」と「掘り取り方」の説明を受け，いよいよお楽しみの掘り取り体験です。

さてさて「どこにあるか，わから～ん。」の声が聞こえたのは最初だけ。皆さん，コツを掴むのが早く，次々と地中のたけのこを見つけ，嬉々として掘り取っていかれます。重量計でたけのこの重さを量って満足した様子に，こちらもうれしくなりました。

今回，市役所から“荒廃竹林の手入れや管理につながる内容”をとのオーダーを受けていたことから，伐竹の手法や安全対策に重きを置き，県の生産者養成講座や補助事業の紹介も行いました。

今後も安全作業でケガ無く健全な竹林が保たれ，たけのこの生産が増大していくよう関係者一丸となって取り組んでまいります。（中村信一）

掘り取り体験

参加者の集合写真

再造林省力化に係る機械地拵え研修を開催

大隅指導区

１月30日(金)に錦江町において，機械地拵え研修を開催しました。

再造林を行う際，労力の大きい地拵えを省力化することを目的として，東京に本社のある株式会社ギガソーラー(代表取締役　青木 克信氏)をお迎えし，研修を実施しました。

株式会社ギガソーラーは，機械での地拵えについて，全国で豊富な実績を持っており，そのノウハウと使用機械について，実演を交えながら説明をしていただきました。

今回使用したラジコン式地拵え機は，イタリア　ＭＤＢ社製の「Lv800」という機械で，グレードがLv300～Lv1400まである当機械の中でも上位のパワーと能力を持っているとのことです。

研修地は，伐採後３年ほど放置された現場であり，カラスザンショウが生い茂っていることから通常の地拵え(人力機械併用)では多くの時間を要することが想定される現場でありました。

Lv800を使用することで，根株も破砕しながら１時間当たり約300m2を地拵えすることができ，今回の研修地で，1日に約2,000m2の地拵えを行うことができました。

当機械を使用することで，地拵えの作業効率は飛躍的に向上することが見込めますが，高額な機械購入費用や年間50万円ほどのランニングコストなど費用対効果の観点から慎重に導入を検討する必要があると感じました。

地拵えの他にも下刈りの省力化など様々な課題が残されておりますが，今後もICT技術を活用した再造林省力化を推進して参りたいと思っております。（鶴田正輝）

講師による機械の説明

実演と操作体験

熊毛地域枝物生産者養成講座

熊毛指導区

熊毛地域におけるシキミ，ヒサカキなどの枝物の生産量は，大隅，南薩に次いで県内で３番目で，県内の約１割を占めており，近年，主にヒサカキの生産量が伸びてきています。

熊毛地域における枝物生産への新規参入の促進と枝物生産者の育成を目的に12月３日から４日にかけて熊毛地域枝物生産者養成講座を実施しました。南種子町に移住して，新たに枝物生産を始める方のほか，生産を始めてから５年未満の生産者や役場担当者を含め８名の参加がありました。

初日は，熊毛支庁会議室において，本県の枝物生産の現状や枝物栽培に必要な基本的な知識や技術，病害虫の防除法から枝物生産の収益性など経営に関する内容まで，座学により学んでいただきました。

２日目は，県枝物相談員の古市氏の圃場を訪問し，樹園の管理やくくり作業，出荷作業などについて，説明していただきました。また，研修生一人ずつ直接指導を受けながらヒサカキのくくり作業を実践してもらいました。

受講者からは，「学んだことを参考に実践していきたい。」，「病害虫の防除方法など改めて勉強になった。」などの声がありました。

今後も安定した生産ができるようフォローアップを行い，生産技術の定着と技術向上への支援を継続して行きたいと思います。（富元雅史）

【座学の様子】

【圃場視察の様子】

特用林産物の養成講座の実施

普及指導・育成部

本県の令和６年の特用林産物の生産額は約41億円で，林業生産額の約２割を占めています。この内，たけのこ，しいたけ，枝物が全体の約７割を占めていますが，近年は生産者の高齢化等により生産量が伸び悩んでいるところです。

このため，県では新規生産者の育成・確保を図るため，毎年，「たけのこ生産者養成講座」を３日間，「原木しいたけ生産者養成講座」を５日間，「枝物生産者養成講座」を４日間行い，定員各20名としています。

また，今年度は「原木しいたけ生産者養成講座」の希望者が多かったため，内容を１日に集約したダイジェスト版を追加で行ったところです。

各講座は，行政，研究・普及，各生産の相談員等が行い，森林技術総合センターの普及指導・育成部が講座の基礎的な内容を担当しています。講義に当たり受講者に対して分かりやすく，丁寧をモットーに取り組んでいます。

今後，各講座を受講された方が，将来を担う生産者になることを期待しているところです。

（橋口雅浩）

たけのこ（伐竹作業）

しいたけ（植菌作業）

枝物（くくり作業）